



浮羽中学校通信

自ら気づき、判断し、行動できる生徒の育成

【重点目標】～自信をもって何事にも取り組む生徒の育成～

うきは市立浮羽中学校
第 11 号

令和7年11月26日 発行

文責 校長 竹並俊和

「未来を創る一步」～生徒会選挙に見る主権者意識の芽生え～

10月6日(月)に令和8年度浮羽中学校生徒会選挙の公示があり、公示を受け2名の会長候補者、3名の副会長候補者、3名の書記長候補者が立候補を決意してくれました。10月22日(水)の朝からは、「おはようございます。〇〇候補の〇〇です。よろしくお願ひします。」という元気で力強い声が、昇降口、中央廊下、そして各教室で響きました。立候補者と推薦責任者のみなさんの声からは、学校をより良くしたいという一生懸命さとやる気が強く伝わってきました。また、その声に応える生徒のみなさんの挨拶や、真剣に聴く姿勢にも、学校全体で選挙を支える温かい雰囲気が感じられました。選挙公報には、「現在の中学校をより良くしていこう」「一人一人の生徒が安心し、自分らしく輝ける中学校に自分たち自身でしていこう」という熱い想いが綴られており、自らの学校を創ろうとする自主性を感じました。特に、30日(木)に行われた立会演説会では、立候補者一人一人が、現在の課題認識、自分の考え、そしてこれからの学校生活への具体的な見通しについて、自信をもって堂々と語ってくれました。どの候補者が当選しても、必ずこれからの浮羽中学校をさらに素晴らしいものにしてくれると確信することができました。立候補のきっかけの一つには、現在の3年生の生徒会執行部の先輩たちの姿があったと多くの候補者が言っていました。先輩たちの努力と姿勢が、しっかりと後輩へと引き継がれていることを大変誇らしく思います。今回の選挙を通じて、生徒のみなさんは、①自分たちのことは自分たちでやる。②話し合いを大切にする。③みんなで決めたことはみんなで守る。という、民主的な集団を作る上で大切な精神を、身をもって体験し、今後も体現してくれるものと信じています。最後になりますが、今回の選挙で使われた記載台、投票箱、投票用紙は、市総務課の方々のご協力により、国政選挙などで実際に使われているものを準備していただきました。生徒のみなさんは、遠くない将来、18歳の年齢になれば、この道具を使って、国の未来を決める一票を投じることになります。現在の若年層の投票率はまだ低いと言われていいます。今回の生徒会選挙の経験を、単なる体験で終わらせるのではなく、将来の自分の投票行動、主権者としての責任に繋げていってほしいと強く願ひます。この経験こそが、みなさんが社会の一員として「未来を創る一步」となるでしょう。選挙の円滑な運営に尽力してくれた選挙管理委員会の委員のみなさん、本当にお疲れさまでした。みなさんの公正な姿勢に心から感謝します。ありがとうございました。



【 立ち合い演説会の様子 】



【 投票・開票の様子 本物の投票用紙を使って 】

最初の一步を踏み出す勇気

去る11月8日(土)、朝倉地域生涯学習センターにて「北筑後イングリッシュスピーチコンテスト」が開催されました。本校からは、3年生の石井朱莉さんが学校代表として出場してくれました。石井さんは、「Just Take the First Step (最初の一步を踏み出そう)」と題したスピーチを披露しました。このスピーチは、先日行われた文化祭のステージ発表でも披露され、みなさんもその素晴らしい内容を耳にしたことと思います。当日、私も会場に応援に行きました。石井さんは、大勢の聴衆を前に、終始落ち着いた様子で、聴く人の心に語りかけるような、気持ちの伝わる上手なスピーチを見事に披露してくれました。惜しくも県大会出場は逃しましたが、会場の関係者の方々からは「気持ちが伝わってくる、感動的なスピーチでした」と、その表現力の豊かさに多くの称賛の声が寄せられました。スピーチで、自分自身の英語学習における体験に基づき、「興味を持ったなら、まずはチャレンジしてみる」ことの大切さを力強く訴えるものでした。この経験を語ることで、私たちに、一步踏み出すことの楽しさや勇気を持つことの重要性を教えてくださいました。内容も構成も、聴衆の心を打つ本当に素敵なものでした。改めて私たちが持つべき「挑戦する心」と「一步を踏み出す勇気」に気づかせてくれます。新しいことに挑戦するとき、不安になったり、難しいと感じて立ち止まってしまうことがあるでしょう。しかし、「最初の一步」を踏み出すこと。その一步こそが、みなさんの新しい成長や感動的な出会いにつながる確かな道です。全校生徒のみなさん、石井さんからのメッセージに学び、学校生活の中で、何事にも恐れず積極的にチャレンジしてくれることを願っています。石井さん、素晴らしいスピーチ、そして感動を本当にありがとうございました！



【英語スピーチを披露する石井さん】

筑後地区新人柔道大会：心に残る真剣なまなざし

11月15日（土）、杷木中学校を会場として「筑後地区中学校体育連盟新人柔道大会」が開催されました。本校からは、和田学君、林弘一朗君、井上遥太君の3名が、昨年からの合同チームとして活動している吉井中学校の山下智也君と共に、団体戦に出場しました。ご存じの通り、柔道部は昨年度から拠点校（合同）部活動として、他校の生徒たちと共に切磋琢磨し、稽古を重ねてきています。結果は残念ながら予選リーグ敗退となりましたが、選手たちが試合に臨む姿は、私の胸に強く焼き付いています。最後まで決して諦めない気持ち、相手と対峙するときの真剣な目、緊張しながらも己の気持ちと必死に戦っている姿、勝敗にかかわらず、畳の上でそのような真剣勝負の表情を出し、全力で挑んでいる姿は、とても印象的でした。柔道部のみなさんはこの合同での活動を通して、技術だけでなく、精神的な強さや仲間との絆も育んでいることなのでしょう。この新人戦で得た悔しさや経験は、必ずや成長の糧となります。選手たちが流した汗と努力は、決して無駄にはなりません。この経験を次に活かすことで、一回りも二回りも大きく成長してくれるはずです。全校生徒と共に、来年の夏に開催される総合体育大会でのみなさんの活躍を心から楽しみにしています。選手のみなさん、本当にお疲れさまでした。この冬の稽古を積み重ね、さらなる飛躍を目指してください。学校全体で応援しています！



【副将で戦っている和田君】



【大刀洗中と再び対戦する】

福祉大会での発表と展示、若さあふれる貢献

11月16日（日）に、かわせみホールにて「第27回御幸地区福祉大会」「第21回御幸地区文化祭」が盛大に開催されました。地域住民のみな様の様々な作品展示やステージ発表が行われる中、本校の生徒たちも積極的に参加し、地域活動に貢献してくれました。展示部門では、美術部と家庭部が、日頃の活動の成果として製作した作品を、地域のみな様の力作と共に展示させていただきました。一つ一つの作品に、生徒たちの個性と熱意が感じられ、会場を彩っていました。また、ステージ発表では、2年生の宮崎由依さん、3年生の内野琉希斗さん、吉瀬 莉希さんの3名が、自身の考えを伝える弁論を披露してくれました。宮崎由依さんのテーマは「平和」、内野琉希斗さんさんのテーマは「食品ロスをなくすために」、吉瀬 莉希さんのテーマは「かけがえのない命と私」でした。それぞれが、現代社会や身近な生活の中の重要なテーマについて深く考え、その主張を堂々と、そしてしっかりと弁論している姿は、会場の参観者の方々からも「大変感心した」とのお声をいただくほどでした。

弁論に続き、吹奏楽部がステージに登場し、会場に美しい音色を響かせてくれました。演奏されたのは「366日」「愛をこめて花束を」「ルリ色のふるさと」といった心温まる楽曲の数々です。部員たちが奏でるメロディーは、日頃の練習の成果を示すようにまとまりがあり、聴いている方々の心に深く響く、素晴らしい演奏でした。この福祉大会・文化祭を通じて、生徒たちは地域の方々へ日頃の学びや努力の成果を直接伝えることができました。また、地域のみな様の温かいまなざしの中で発表・展示できたことは、生徒たちにとって大きな自信と励みになったことと思います。地域とともに学び、交流し、支え合っていくことの大切さを改めて感じた一日でした。参加した生徒のみなさん、素晴らしい発表と演奏、そして展示を本当にありがとう。そして、温かく見守ってくださった校区のみな様に心より感謝申し上げます。



【宮崎 由依さん】



【内野琉希斗さん】



【吉瀬 莉希さん】



【吹奏楽部の演奏】



【美術部の作品展示】



【家庭部の作品展示】